

2014年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	建築・デザイン学科／情報学科／経営ビジネス学科						
科目名	初等物理学						
科目区分	人間形成科目	単位数	2	開講時期	2・3年前期		
必修・選択の別	選択科目(コースA群)／自由科目(コースB群)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトルの内積を計算できる。</li> <li>与えられた軌道の関数から速度，加速度を計算できる。</li> <li>1次元の運動方程式を解ける。</li> <li>調和振動子の運動を解ける。</li> </ul>						
日程と内容	4/ 8 導入，成績評価の方法，物理学とは 4/15 力学を学ぶにあたって 4/22 ベクトル，基本ベクトル，ベクトルの成分 4/29 ベクトルの和と差，スカラー積とベクトル積 5/13 直線上の運動，位置と速度 5/20 加速度，力とそのつり合い（実験） 5/27 2次元平面内の運動（等加速度運動，等速円運動）宇宙ステーションにおけるみかけの重力 6/ 3 ばねの運動，ばねの運動の実験，単振り子 6/10 運動エネルギーと仕事 6/17 力学エネルギーの保存則，束縛運動 6/24 万有引力 7/ 1 惑星の運動，静止衛星 7/ 8 人工衛星の初速 7/15 総合復習 7/22 定期試験 7/29 試験の講評						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	40%	計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	目標は授業によっておおむね到達できた。ただし，運動方程式を微分方程式として解くことはできなかったため，グラフや初等的な幾何学を利用して解いた。						
反省点	当初の履修登録者のうち，かなりの割合が早い時期に履修を放棄し，最終的には3分の1以上が定期試験を受験しなかった。履修放棄を思いとどまらせるためにも，課題の提出に留意させるべきであった。						
来年度の計画	基本的には今年度と同じ内容で実施する。ただし，講義内容の理解の手助けのために，補足の演習や演示の時間を増やす予定である。						
授業評価アンケートに対するコメント	全項目にわたって評価が低い。いわゆる「お話」を多く取り入れればよいのかもしれないが，それでも学生がふだんの生活の中の現象に注意していないかぎり力学が身近なものとして感じられないであろう。						
履修登録者数	24名	定期試験 受験者数	15名	合格者数	12名	合格率	80%